

学院部「印度・中国仏教史」長崎 陽子

「インド・中国仏教史」は、得度講習会講習科目「仏教の基礎知識」内の「釈尊の生涯」、教師教修出願資格試験科目「仏教史」に該当する講義です。

親鸞聖人が浄土真宗を開かれたのは、釈尊がインドで仏教を開かれて約 1650 年後でした。つまり、釈尊と親鸞聖人の間には、“インドと日本”という距離と 1650 年もの時代の差があ

ります。この長い距離と長い時を、だれかが懸命に教えをつないだからこそ、親鸞聖人は^あ遇

いがたき「^{せいぼん}西蕃・^{げっし}月支の聖典、^{とうか}東夏・^{じちいき}日域の師釈（仏の教えと勝れた解釈）」に遇われ、浄土真宗を開かれました。「インド・中国仏教史」では、インドで開かれた仏教がどのようにつなわれ、日本に伝えることができるようになったのかをみていきます。